

● はじめに

イブニングサイトビジットは、全部で6団体の取り組みが紹介され、私は2団体を選択した。今回は、そのうちの1つ、「壁のない画廊」レイクオスウェゴ市のアート協議会の取り組みについてレポートする。

なお、レイクオスウェゴ市と我が吉川市は、20年以上「姉妹都市」として交流事業を行っている。私自身は、今回初めてレイクオスウェゴ市に足を踏み入れることが出来たため、かなり感慨深いものがあったことを始めに記しておく。

アート協議会は、1999年に設立された非営利団体で、「市民が生活する上で芸術が重要であり、必要であることを確保する」ために創設された。また、「壁のない画廊」は、レイクオスウェゴ市の庁舎内や道路などに著名な彫像などが展示された屋外美術展のことで、2002年に始まった事業である。今回は、アート協議会の創設会員で元市長でもあるジャック・ホフマン氏を始めとする計5名の皆さんの案内によるウォーキングツアーに参加した。

● 研修で気付いたこと、教わったこと等

「歩く道全て」と言っているほど、このまちは「アート」に溢れていた。しかも、市役所の中までがちょっとした「美術館」になっている！この感覚は、日本では味わうことがない新鮮なものだった。仕掛け人である元市長のジャックさんは、「市民には、車で移動するのではなく歩いて移動することを奨励している。歩いてアートを見て、実際に触ってもらいながらアートを身近に感じてもらう。そして、後ろを振り返ってもらう。」と話されていた。「何故、後ろを振り返るのか？」と疑問に感じた私に対して、ジャックさんは次のような答えを用意していた。

「後ろを振り返ると、そこには地元のお店がある。アートを感じた後は、お店で買い物をしてもらってお金を落としてもらおう。アートを活用したまちづくりを念頭に置き、将来のビジネスを頭に描きながらまちづくりを進めている。」

なるほど！一つの目的から2つ以上の Goal を設定している訳だ。「アートを見る→人と交流する→店に寄ってお金を落としてもらおう」という一連の流れは、まさに「一石二鳥」にも「一石三鳥」にもなり得るアイデアと熱意に溢れた素晴らしい政策であると思った。

● おわりに

ジャックさんは、「ここを皆で楽しく住める場所にしていきたい。そして、市民にレイクオスウェゴ市を自分の故郷だと感じさせることがとても重要だ」という Goal の姿を語ってくれた。そして、最後に我々研修生あてに次のようなメッセージを送って下さった。

「アート協議会の取り組みは、小規模であれば、どんなまちでも実行することが出来るはずだ。小さい所から始めて徐々に大きくしていくことがポイント。そして、地元企業や市民と繋がりながら実行することが何よりも大切なことだ。」

ジャックさんは、この事業の後継者として2人の市議会議員さんを選び、既にバトンタッチしている。ジャックさん曰く、「バトンを担える存在がいるから、今のようなまちになっていると思う。」と

のこと。確かにこのまちの未来はこれからもアートに充ち溢れ、誰もが楽しく過ごせるまちになりそうな予感が漂っている。みんながこのまちが本当に好きなのだと感じた時間となった。

たった一人のアイデアから始まったこの事業は多くの人を巻き込みながら予想以上の効果をあげ、地元を活性化させていた。我々公務員は、一つの事業から一つの結果だけを考えがちで、それ以上視野が広がらず、いつの間にかしぼんでなくなってしまう事業やマンネリ化が酷い事業などが非常に多いと思う。今回の訪問により、多くの人を巻き込みながら、多角的な視点で物事を捉え、アイデアを膨らませていくことの大切さを学んだと思う。

